

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）

本資料は、文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。
下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

- ◆ここに示されているものは、あくまで例であり、これ以外は「合理的配慮」として提供する必要がないということではありません。
- ◆複数の障がいを併せ有する場合には、各障がい種別に例示している「合理的配慮」を柔軟に組み合わせ検討しましょう。
- ◆記載していない項目についても、「合理的配慮」として提供する必要がないというものではありません。一人一人の障がいの状態や教育的ニーズ等に応じて検討しましょう。

④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと） 自閉症・情緒障がい

※文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）別表」を参考に作成したものです。下線部は愛媛県総合教育センターにおいて追加しました。

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

◎自閉症の特性である「適切な対人関係形成の困難さ」「言語発達の遅れや異なった意味理解」「手順や方法への独特のこだわり」等により、学習内容の習得の困難さを補完するための指導を行う。

- ・繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚えることができるように指導を行う。
- ・意味を理解できるような動作・身振り等をしながら話をする。
- ・授業の流れを視覚化して明示する。
- ・授業中のルールを徹底する。
- ・指示は要点だけを分かりやすい言葉で伝える。
- ・板書の量やチョークの色を工夫する。

①-1-2 学習内容の変更・調整

◎自閉症の特性により、数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする場合の学習内容の変更・調整を行う。

- ・理解の程度を考慮した基礎的・基本的な内容を確実に習得できるようにする。
- ・社会適応に必要な技術や態度を身に付けることができるような内容を取り入れる。
- ・ホワイトボードやタブレット端末等を活用し視覚化して示す。
- ・問題の意味が分かるように、具体物や絵を使用する。
- ・見本を示して完成や作り方が視覚的に分かるようにする。

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

◎自閉症の特性を考慮し、視覚を活用した情報を提供する。

- ・写真や図面、模型、実物等を活用する。
- ・困ったとき、「いつ」「誰に」尋ねたらよいか明確に示す。

◎細かな制作等の苦手さに配慮する。

- ・扱いやすい道具を用意する。
- ・補助具を効果的に利用する。

①-2-2 学習機会や体験の確保

◎自閉症の特性により、実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難なことに配慮する。

- ・実際の体験の機会を多くする。
- ・所属感を高めるために学級活動で発表する機会を設ける。

◎言葉による指示だけでは行動できないことが多いことに配慮する。

- ・学習活動の順序が分かりやすくなるよう活動予定表等を活用する。
- ・行事の際は個別に説明し見通しを持たせる。

①-2-3 心理面・健康面の配慮

◎情緒障がいのある幼児児童生徒の状態（情緒不安や不登校、ひきこもり、自尊感情や自己肯定感の低下等）に応じた指導を行う。

- ・カウンセリング的対応や医師の診断を踏まえた対応をする。
- ・グループを編成する時に事前に伝える。

◎自閉症の特性により、二次的な障がいとして情緒障がいと同様の状態が起きやすいため予防に努める。

- ・よいところを具体的に言葉で賞賛する。
- ・本人からの訴えをを否定せず受け止める。
- ・肯定的な言葉で指示や注意を伝える。
- ・不安を解消する方法を提案する。

②-1 専門性のある指導体制の整備

◎自閉症等の特性について理解を深めるために、自閉症や情緒障がいを十分に理解した専門家からの支援や、特別支援学校のセンター的機能及び自閉症・情緒障がい特別支援学級、医療機関等の専門性を積極的に活用する。

- ・巡回相談や専門家チームを活用する。
- ・定期的にケース会議を持ち、情報共有するとともに必要な合理的配慮について検討を重ねる。 等

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

◎他者からの働きかけを適切に受け止められないことや言葉の理解が十分ではないこと、方法や手順に独特のこだわりがあること等について、周囲の幼児児童生徒、教職員、保護者への理解啓発に努める。

- ・関係する教職員が集まって情報交換会を行う。 ・保護者対象の研修会を行う。
- ・関係者が集まって支援会議を行う。
- ・教職員や保護者向けの書籍・教材を購入・貸出しをする。 等

②-3 災害時等の支援体制の整備

◎災害時の環境の変化に適応することが難しく、極度に混乱した心理状態やパニックに陥ることを想定した支援体制を整備する。

- ・防災計画書に、対象の幼児児童生徒の在籍学級の見回りや担当者の配置等を明確に位置付ける。 等

③-1 校内環境のバリアフリー化

- ・物の配置や場所を視覚的に理解できるようにする。 等

③-2 発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

◎衝動的な行動によるけが等が見られることから、安全性を確保した校内環境を整備する。

◎興奮が収まらない場合を想定し、クールダウン等のための場所を確保する。

◎自閉症特有の感覚（明るさやちらつきへの過敏性等）を踏まえた校内環境を整備する。

- ・棚の中が見えないように布や無地の紙で覆う。
- ・教室で給食をとることができないときは別室での給食を実施する。 等

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

◎災害等発生後における環境の変化に対応できないことによる心理状態（パニック等）を想定し、外部からの刺激を制限できるような避難場所及び施設・設備を整備する。